

# 厳寒期に取り組む ジャンボタニシ対策



ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の食害が激しいと、イネが株ごとなくなってしまう、大幅な減収につながります。ジャンボタニシは用水路や水田で越冬し、水田では土中に浅く潜り込んで越冬します。

ジャンボタニシがいる水田では、厳寒期（1～2月）の対策を徹底してください。

**厳寒期の耕うんでジャンボタニシの越冬数を減らしましょう！**



厳寒期に水田の表層を5cm程度削るように数回耕うんしてジャンボタニシを寒さにさらし、また、破砕することで越冬数を減らします。

耕うんは尾輪を装着し、速度をゆっくり、ロータリーの回転を速めにして丁寧に耕すことでより高い効果が得られます。

暖冬の年はジャンボタニシが寒さで死滅せず、生き残って越冬する個体が多くなるので、田植期～水稻生育期の対策※を徹底してください。

※裏面を参照

岡山県植物防疫協会

R6.12作成

# 【田植期～水稻生育期に実施する対策】

## 1 用水路の卵や貝を地域ぐるみで捕殺しましょう

卵塊を早めに水面下へ払い落とし、卵がふ化できないようにします。

地域ぐるみで取り組むとより効果的です。



## 2 農業用水からの侵入を防ぎましょう

水田の入水口と排水口に目合い9 mm程度\*のネットや金網を設置しましょう。

右の写真では、ポリエチレン製のネットを使用しています。

※目合いが粗すぎると小さな貝がすり抜け、細かいとゴミが溜まりやすい。



## 3 田植後は浅水管理で被害を防ぎましょう

イネが加害されるのは田植後約3週間です。その間、水深をできるだけ浅く保ちます。水深が4 cmを超えると被害が増加します。

また、ほ場の均平も重要で、ほ場が凸凹だと深いところの株が食害されやすくなります。

## 4 田植後に農薬で適切に防除しましょう

上記1～3の対策に加え、登録のある農薬での防除を組み合わせることでさらなる被害の軽減を図りましょう。

詳しくは、お近くのJAもしくは農業普及指導センターへお問い合わせください。